

令和4年度 第2回浜松市市民協働推進委員会

日 時：令和4年8月16日(火) 午前10時00分～11時24分

場 所：浜松市役所 本館8階 第4委員会室

出席者：鄭智允委員長、須山嘉七郎副委員長、古橋理委員、橋本成美委員、
夏日記正委員、今宿康一委員、北智美委員、成瀬記言委員、平松千佳委員、
村木則予委員

報道関係：2名

傍聴者：3名

事務局：奥家市民部長、藤田市民部次長、松下市民協働・地域政策課課長補佐、
森本副主幹、村瀬、菅谷、高橋

会議次第

1 開会

2 委員委嘱

3 市民部長あいさつ

4 委員紹介および職員紹介

5 委員会の役割及び会議の公開等について・・・・・・・・資料2

6 議事

(1) 委員長の選出について

(2) 副委員長の指名について

(3) CSR活動表彰の募集開始について・・・・・・・・資料3

(4) その他

7 閉会

《資料》

- ・委員名簿・・・・・・・・資料1
- ・浜松市市民協働推進委員会の役割と会議の公開等について・・・・資料2
- ・CSR活動表彰の募集開始について・・・・・・・・資料3

1 開会

事務局： ただ今から令和4年度第2回浜松市市民協働推進委員会を開催する。

本日は、オブザーバーのはまこら(浜松市市民協働センター)今中センター長から欠席の旨ご連絡を頂いている。本日の終了時刻は11時30分を予定している。

※配布資料の確認

2 委員委嘱

奥家市民部長より委嘱書を交付

3 市民部長あいさつ

奥家市民部長あいさつ

4 委員紹介及び職員紹介

委員自己紹介及び事務局職員の紹介

5 委員会の役割及び会議の公開等について

※資料1に基づき説明

6 議事

(1) 委員長の選出について

事務局： 委員長の選出については、浜松市市民協働推進条例第15条第2項の規定に基づき、委員の互選により選出することとなっている。委員長についてどなたか推薦があれば伺いたい。

夏目委員： 今までどのような方が委員長に選出されたのか。

事務局： これまでは学識経験者の委員が委員長として選出されていた。

須山委員： 鄭委員は愛知大学から学識経験者として委員に入っている。鄭委員にお願いしてはどうか。

事務局： 須山委員から推薦があったがいかがか。

—委員一同異議なし—

事務局： 皆さんの賛同を得られたが、鄭委員、よろしいか。

鄭委員： 引き受けさせていただく。

(2) 副委員長の指名について

事務局： 次に副委員長であるが、浜松市市民協働推進条例第15条第3項により、副委員長は委員長が指名することとなっている。鄭委員長に副委員長の指名をお願いしたい。

鄭委員長： 前期、副委員長の経験のある須山委員を指名させていただく。

事務局： 委員長から指名をいただいたが、須山委員、よろしいか。

須山委員： 引き受けさせていただく。

—鄭委員と須山委員がそれぞれ委員長席、副委員長席に移動—

事務局： それでは、ここからの議事進行は、鄭委員長にお願いします。

鄭委員長： 初めに、本会議の公開・非公開について確認する。先程、事務局からの説明にあったとおり、本委員会の会議については原則公開となっている。今回は、公開で行いたいと思うがいかがか。

—委員一同異議なし—

鄭委員長： 委員の皆さんから同意をいただいたので、本日の会議は全て公開で行う。

(3) CSR活動表彰の募集開始について

鄭委員長： 事務局から説明をお願いしたい。

事務局： ※資料3に基づき説明

鄭委員長： 前回の委員会で指摘を受けた点については改善していただいたということなので、前期から引き続き委員をされている方のご意見をお聞きしたい。

古橋委員： 昨年度までCSR活動の審査は非常に難しいところがあり、委員の中でもどの点に絞って審査するか議論になったが、今回審査基準が以前より明確になっており、改善されている。今年も審査していくうちにまだ改善すべき点が出てくるとは思うが、まずはこれで良いと思う。

須山副委員長： 前回での委員会の議論が織り込まれていて、採点しやすくなった。

村木委員： 申込書はこれで確定なのか。2の「社会課題、地域課題をどのようにしたいと考えているか(目標)」の書き方が気になる。今までは「〇〇がきれいになると良い」とか「女性の社会進出が進むと良い」といった漠然とした書き方でよかったのだが、4に「2で定めた目標に対する達成度」とあり、これを数値(%)で評価するとなると、どう書けばよいのかを示してあげないとわからないのではないかという心配がある。しかし、もう決定しているのであれば、これで一度やってみればよいと思う。

鄭委員長： 事務局の説明を求める。

事務局： 4の「達成度」は、企業の中で、2で設定した目標が自分たちの活動によってどのくらい達成できたかをパーセンテージで数値化するもので、2で「数値化した指標」を設定するものではない。自分たちで課題を明確に捉えているか、活動の効果を把握しているかを見るものである。

村木委員： 理解できたが、わかりにくいので記載例を示すべきだと思う。

鄭委員長： 書式を変えるのは難しいので、質問が来た場合の対応を考えてはどうか。

事務局： 募集を開始して、質問が来たら丁寧な説明で対応する。

成瀬委員： 新規性、先駆性について、この2点は特別賞としての審査基準だと思うが、この書き方だと、新規性や先駆性がない取組みは応募できないように読み取れる。応募が減ってしまわないだろうか。

事務局： 何をやったかについての表層部分の審査というよりも、清掃活動などのありふ

れた活動であっても「経緯」があって「活動」に結びついていたという「骨太のストーリー」が大切である。企業としてその活動をやろうと決定するまでの経緯、どういう形で議論されてその活動に結びついていったのかをよく見ていく必要がある。その部分に対する表彰というのもありだと思ってしまうので「自分たちの活動はありふれたものだから応募できない」と思われてしまうのは本意ではない。活動がありふれているから表彰されない、評価が低くなるというわけではないということは説明が必要である。

今宿委員： 確かにこれを見ると、今までにない活動でないといけないうように見えるので、応募が減ってしまう心配はあると思う。

橋本委員： 私は、最初に申込書を見たときに「今までの議論が反映されているな」と思った。他の委員の方々のご意見を聞いて、改めてこの部分を見ると「ゴミ拾い程度では応募できないかな」と思われてしまう不安はある。

平松委員： 新規性や先駆性に関する記載欄を別にしてはどうか。

鄭委員長： 誤解を与える表記で応募が減ってしまうのが一番困るが、今この場で事務局が決定するのは難しいと思うので、再考していただき、変更したものを各委員に知らせてもらう、ということでしょうか。

今宿委員： もうこの書式に決定して作成してしまっているのではないのか。

事務局： まだ印刷はしていない。誤解を与えて応募が減るようなことはあってはいけないので、新規性、先駆性の示し方については、事務局にお任せいただき、何らかの形で改善をして、委員の皆様にご報告するというご報告をお願いしたい。

須山副委員長： この内容については、前回の委員会でもたくさん意見が出て、議論して練り上げて作成している。改善すべき点は尽きないが、一番下に「申請内容に関するヒアリングをさせていただく場合があります」とあるのだから今年はこれでやってみてはどうか。応募の際に質問が出たら事務局に丁寧にお答えいただくということで、来年度の作成の時に他の改善点も含めて修正していけば良いと思うが、いかがか。

今宿委員： ご質問があれば事務局へご連絡を、という一文を添えれば解決できると思う。

北委員： 昨年応募したのだが、どう書いてよいかわからなかった。書き方の事例を挙げて欲しい。他社がどう書いているのか知りたいし、型が決まっていれば審査する方も楽だと思える。賞を獲るために応募する企業ばかりではなく、自社の活動を紹介したい、社員の頑張りを見ていただきたいという考えで応募する企業もあると思うので、新規性、先駆性の件もきちんと説明して、応募をためらうことがないようにしていただきたい。

古橋委員： 今までの受賞企業、常連の企業をピックアップして、応募するときにわかりにくかった点や改善してほしい点をヒアリングして次に反映してはどうか。

事務局： 事務局に気軽に質問していただけるよう表記するとともに、例を挙げて書き方を明示するようにする。

須山副委員長： こういった議論は、何度やっても出てくるが、今はCSR活動の裾野をどんどん広げていく段階であるので、より多くの企業に応募してもらうための必要な議

論である。完成形に近づいていけるように上手に検討していけばよいと思う。

事務局： それでは、今回示した書式で進めていくが、いただいたご意見をふまえて対応し、委員の皆様には改めてメール等でお伝えさせていただくこととする。

(4) その他

鄭委員長： 今後のスケジュールについて事務局から説明を求める。

事務局： 10月に開催予定の委員会では、はままつ夢基金の事業提案、団体登録の審査と制度の見直しについての協議、12月開催予定の委員会ではCSR表彰の受賞企業についての審査、3月頃開催予定の委員会では夢基金の制度の見直し、CSR活動表彰制度についての協議、市と多様な主体との協働に関する実績・評価についての調査について協議していただく予定である。

次回の委員会の日程の調整については、改めてご連絡させていただく。

7 閉会

事務局： 以上をもって、令和4年度第2回浜松市市民協働推進委員会を閉会する。